

代表的な毒きのことその特徴

猛毒な種類(致命的)



ドクツルタケ

全体が白色、柄の上部に膜質なつば、また基部に袋状のつぼを備える。夏～秋、林内の地上に発生。



ニセクロハツ

淡い灰色を帯びた中型のきのこで、肉質は堅くてもろい。ひだは荒く、淡いクリーム色～ほぼ白色。ひだや肉は傷を受けるとゆっくりと赤く変色する(速やかに赤く変わり、次いで黒く変色することはない)。

夏～初秋、主にシイ・カシ林に発生。



カエンタケ

全体が紅色～橙紅色を帯びる。棒状あるいは手のひら状～とさか状に枝分かれする。肉質は堅くてもろい。

秋、朽ちた切り株の根元付近の地面に発生する。

例年中毒の多いきのこ(胃腸障害型)



ツキヨタケ

傘は半円形で傘の横に太くて短い柄を付ける(ヒラタケ型)。傘は口ウをひいたような感があり、初め褐色、のち色あせて白くなり、しばしば紫色のしみを生じる。ひだと柄の境目には輪のようなつばがある。

きのこを割くと、柄の根元に暗紫色の染みがある。新鮮なきのこではひだが暗闇で青白く光る。

秋、ブナその他の広葉樹の枯れ木や倒木に発生する。色はシイタケに、形はヒラタケやムキタケなどの食用きのこに似る。



クサウラベニタケ

中～やや大型なシメジ型のきのこ。傘は湿っているとき一様に灰褐色～淡黄褐色で、乾いてくると速やかに退色して淡灰色となる。肉質は比較的もろい。ひだは初めほぼ白色、成熟するとピンク色を帯びる。柄は白色、株状になることはない。味は温和だが、穀粉臭がある。秋、林内の地上に発生する。

近縁なウラベニホテイシメジ(食用)とは、傘の表面に緋状の模様がないこと、肉に苦味がない点などで異なる。ホンシメジやハタケシメジ(食用)とはひだが赤味を帯びること、株状に発生しないことなどで異なる。